

4月5～6日、和歌山市で開催された中部日本整形災害外科学会のあと、会長のご厚意で熊野古道を訪れました。爆弾低気圧のせいで6日から電車が止まりツアーも危ぶまれましたが、7日には天気も持ち直し熊野古道・那智の滝と訪れることができました。町中の桜は半分ほど散っていましたが、見事な山桜を楽しむことができました。車窓からは平成23年8月25日に発生した台風12号による那智川流域の大規模な土石流災害の後も生々しく未だ修復途上でした。

5月号の表紙は宮古島砂山ビーチで飾られています。浜遊びでしょうか、楽しそうな雰囲気が感じ取れます。本号のトピックスは①平成24年度女性医師支援事業連絡協議会、②消費税問題に関する講演会、③地区医師会長会議、④第4回沖縄県医師会県民健康フォーラムです。③については記事をご覧ください。本号は医の倫理、母胎血 cell-free DNA 胎児染色体検査によるダウン症の検査、消費税等興味深い内容が満載です。

第3回シンポジウム「会員の倫理・資質向上を目指して」では、「医療訴訟は決して患者の重症度等比例しない」全くその通りです。医療訴訟に巻き込まれるのがいやで、つい予防策を考えてしまいますが、つらい状態でありながら私たち医師を信じて、病氣と闘っている多くの患者さんがおり、努力にもかかわらず期待した結果を得られない患者さんがいるのも事実です。医師の努力と患者の満足がリンクするような社会の成熟を願ってやみません。

「平成24年度母子保健講習会」では母胎血 cell-free DNA 胎児染色体検査について述べられています。高齢出産に伴うダウン症の増加があり、妊婦の知る権利と生まれてくる生命の尊厳との間の大きな倫理的な問題を提起しています。「女性医師支援事業連絡協議会」について、今年の琉大卒業生は女性医師が40%でした。

女医の復職や勤務の継続のための環境整備は女医ばかりでなく医療全体にとって重要な課題です。日本の女医の勤務継続率は、県・市議会議員の女性比率と同様に先進国の中でも低く、この率を先進国並みに上げることは医師不足の解消につながります。他県の保育サポーターバンクなどの事業を沖縄県でも取り入れて行って欲しいと考えます。

消費税問題も私たちにとって重要な問題です。今まで医療に関する消費税が非課税であり、控除対象外消費税が病院負担であり診療報酬への上乗せ分として補填されていましたが、消費税の増税によりこの控除対象外消費税がクローズアップされてきました。詳細は本文をご覧ください。4月20日には四川地震が発生しました。沖縄医報でも災害対策の特集が組まれています。本号でも「大規模災害発生時における多数死体検死要項訓練」が報告されています。2年前の東日本大震災では多数の検死が行われ身元確認に重要な情報が得られましたが、不慣れなため初動が遅れたことが多くの身元不明死体を残した原因の一つとなりました。不慮の災害に対して準備しておくことは重要であり、将来の災害に先駆けて訓練ができたことを大きく評価したいと考えます。

第4回県民健康フォーラムは腰痛が取り上げられ、参加者は500人を超えました。私たち整形外科医は腰痛の原因を探しそれを物理的に取り除くことを仕事としていましたが、一般の腰痛の原因は社会的なものも含めて多彩なこと、さらに電気治療やマッサージ、カイロなどのように施術により腰痛は軽快しても一時的であり、長期的には意味の無い治療が蔓延していることなど多くの問題点があります。腰痛でもエビデンスが蓄積され、より良い治療効果が得られるよう努力して行きたいと考えています。

広報委員 金谷 文則